

## 活躍中の同窓生

一般社団法人蔵前工業会 第37代理事長  
株式会社国際経済研究所 副理事長

井戸 清人氏  
(S48数)

# 井戸清人新理事長に聞く

蔵前工業会新理事長になられた井戸清人氏は文武両道を実践され、整理された課題を明快に語るジェントルマン。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、無理をお願いして書面でのインタビューにおこたえいただきました。(写真撮影:6月11日 東工大蔵前会館にて)



●プロフィール  
いど きよと:1950年、東京都出身。1973年、大蔵省(現財務省)入省。ドイツザールラント大学留学。国際局総務課長、駐米公使などを経て、2004年、財務省国際局長。2006年、日本銀行理事。2011年4月より(株)国際経済研究所副理事長(現)。

—— このたびは蔵前工業会の理事長ご就任おめでとうございます。井戸さんには2014年に「今、活躍中の同窓生」として既にご登場いただき、また、新理事長としてご挨拶を本号にて頂戴しておりますが、ここでは、それらを踏まえまして、新理事長の思いなどをお伺いしたく存じます。

### 財務省(当時は大蔵省)入省から現在まで

—— ご経歴やご趣味については既にお伺いしておりますが、改めて現在に至るご活躍をまずはお聞かせ下さい。

**井戸** 私は1973年に理学部数学科を卒業して財務省に入りました。財務省は、私が入省する10年前ごろから1~2年に1人程度理系出身者を採用するようになっていました。人材の多様化を図るためということで、理系出身でも文系と同じ事務官として、私も主税局、主計局からスタートしました。その後は、4回の

海外勤務も含めて、国際部門で長く働きました。

2006年に国際局長で財務省を退官し、日本銀行の理事になりました。現在では財務省や日本銀行で、当時よりもさらに多くの理系出身者が活躍しています。2011年から、現在の国際経済研究所に副理事長として勤務しています。同研究所はトヨタグループのシンクタンクとして、トヨタ自動車の経営幹部に国際政治経済の状況について報告しています。

また以前に日本電産の社外取締役をしていたことから、永守会長が現在の学校法人永守学園(京都先端科学大学)の理事長になられた時に、私も理事に就任しました。同大学では今年4月に工学部を新設し、教授陣も海外から多くの先生を迎え、専



西ドイツへ留学(当時24歳)

門課程の授業は全て英語で行います。

—— ご専門だけでなく、教育機関の経営まで幅広くご活躍なのですね。ご趣味も続けていらっしゃるんですか。

**井戸** 2014年の前回のインタビューでお話した、趣味でオペラのアリアを歌うグループも続けており、そのご縁でオペラ歌手の団体である二期会の評議員もしております。歌のレッスンを始めたのは十数年前ですが、実はオペラへの関心はドイツ留学の時からです。財務省に入ってから3年目に西ドイツのザールラント大学に留学しました。せっかくドイツに留学したので、勉強だけでなく文化も学びたいと思い、毎週末オペラ劇場に出かけ、音大の先生からパイプ・オルガンのレッスンを受けていました。

また日本で少しフェンシングをしていたこともあり、大学のクラブに入っていました。監督のメース氏には大変良くして頂きました。彼は1964年東京オリンピックの時の西ドイツナショナルチームの監督で、ま

た令嬢が銀メダルをとったこともあって大変な日本ファンでした。地元の新聞にも「東洋の剣士来る」と大きな記事を載せて頂きました。右はその時の写真です。音楽やフェンシングを通じて多くの良き友を得ましたが、残念ながら帰国してからは、パイプ・オルガンもフェンシングも続ける機会を得ませんでした。



大学のフェンシング部でメース監督(左)と

### 蔵前工業会や東工大の活動に対する期待

—— 蔵前工業会でもこれまで理事でいらっしゃるのと同じにご講演や経営者懇話会の取りまとめをいただいています。蔵前工業会や東工大の最近の動向

についてどうお感じでしょうか。

**井戸** 蔵前工業会では4年前に理事に就任し、2年前から蔵前経営者懇話会の代表幹事となりました。さらに東工大でも経営協議委員として中期計画などの議論に参加しています。

6年前のインタビューでは、東工大に期待することとして、第一にリベラルアーツ教育の充実や人文系の大学との交流、第二に英語の授業の充実や海外の大学との共同プロジェクトなどの国際化、第三に経営もできる人材の育成をあげました。また学生と経営トップとがコミュニケーションできる場を増やすことや、学生には他大学や先輩とのネットワークを広げることも、インタビューでお話しました。この願いは今も変わっていませんし、実現されつつあることを嬉しく思っています。

今回理事長に就任するに当たって、私としては、第一に大学との連携強化、第二に国際化の推進、第三にITの活用、第四に社会連携の強化、にも引き続き力を入れたいと思っています。

## 蔵前工業会の会員数増加と 会員間の連携強化

—— 蔵前工業会も最近は単なる全学の同窓会としての活動にとどまらず、活発に活動しています。東工大、現役学生、そのOB/OG、それを受け入れている企業や組織…、それらを有機的に結ぶ活動など、今後の蔵前工業会の役割についてお考えをお聞かせいただけないでしょうか。

**井戸** 私は東工大を卒業後、財務省に就職したので東工大の卒業生と仕事上交流する機会もなく、その後海外勤務が多かったことから蔵前工業会との連絡も疎になっていました。しかし日銀理事の時に、情報システムや日銀分館の紙幣の搬送システムで日立グループとご縁があり、故庄山悦彦名誉相談役(S34電)とお会いする機会がありました。そして庄山さんのお誘いで蔵前工業会の活動に参加させて頂くようになりました。庄山さんには大変ご恩を感じており、亡くなられたことは大変残念ですが、心からご冥福をお祈りいたします。

私のようなケースもあるので、現在では学生として在学している時から蔵前工業会に参加できるようになったことは、大変素晴らしいことだと思います。また最近では卒業後も節目の年ごとに同期の同窓会が開催されていますが、是非今後も継続的にネットワー

クを維持して行って頂きたいと思います。

また卒業生が蔵前工業会に参加するインセンティブも必要だと思います。東工大には、欧米の大学の有力教授をメンバーとするインターナショナル・アドバイザリー・ボードがあります。昨年2月の会議では大学と同窓会の連携がテーマになったので、私も出席いたしました。ご存知の通り海外主要大学の同窓会は卒業生の参加率が高く、活動も大変活発です。私がこの理由を質問したところ、何人かの方は少し考えてから「アイデンティティ」と答えられました。確かに海外の同窓会では、スクールの紋章を入れたタイやカフスなどもよく見かけます。こうしたアクセサリーで連帯感を確認することも一体感をつくることに役に立つと思います。現在、蔵前工業会でも大学職員用と配色が異なりますが、同じデザインのラベルペン（襟章）を卒業生のために準備しており、大学の生協で購入できます。<sup>※1)</sup>

—— アイデンティティは、東工大に入学しようとするもの、学んでいる学生、卒業し社会で活躍しているOB/OGの心のなかに意識されることが本質で、そのためには東工大やその卒業生が社会認知を一層得る必要があるように思います。

## 大学との連携強化

—— 4つ挙げられました新理事長としての抱負について少し詳しく教えていただけますか。

**井戸** 既に申し上げた通り、私は東工大の経営協議会で大学の経営についても議論に参加させて頂いています。東工大は三島前学長そして益学長の強いリーダーシップのもとで「世界トップ10」入りを目指して、教育・研究・ガバナンスの改革を進めています。その結果2018年には指定国立大学法人に選ばれ、また最近発表された今年のQS世界大学ランキングでは、昨年の58位から今年は56位となりました。さらに今回の新型コロナウイルス問題に対しても、早期にオンライン授業や困窮学生支援などに適切に対応しています。こうした大学当局の成果は、高く評価されるべきです。そして今、大学当局と蔵前工業会が大変良い関係にあることが、こうした結果に少しは貢献しているのではないかと期待しています。

私が6年前のインタビューの時に今後の東工大に期待した点についても、着実に進歩していると思っています。まず英語による授業は既に大学院は全て実

施されており、充実してきていると承知しています。留学生には日本語学習を通じて日本の生活・文化を理解してもらうことも必要ですが、英語だけでも専門教育を受けられることは、留学生の多様化と質の向上に資すると思います。またリベラルアーツ教育の充実については、今はリベラルアーツ研究教育院で上田先生を初めとして多くの先生が頑張っておられます。また一橋大学との教育分野での交流も順調に進んでいます。米国のMITなども政治経済についてレベルの高い教育を行っていると聞いていますが、是非今後も政治経済の分野について一層充実して頂きたいと思います。それが「経営もできる人材」の育成にも効果があると思っています。

大学当局はこれまで難しい改革にチャレンジして成果をあげてこられました。もちろん今後もまだ多くの課題が残されていますし、また今回の新型コロナウイルス問題は教育システムやビジネススタイルにも構造的変化をもたらすと思います。こうした問題に対する大学当局の改革を蔵前工業会としても全力で支援して参りたいと考えています。

## 国際化の推進

—— 2番目は国際化でしたね。

**井戸** 私は財務省時代に、西ドイツのザールラント大学へ留学したあと、在フランクフルト総領事館で勤務しました。またその後は米国のワシントンにある中南米諸国の開発を援助する国際機関、米州開発銀行の財務局次長、そして在米日本大使館財務公使と計4回海外に勤務しました。また1997年のアジア通貨危機支援やアジア諸国の経済開発援助などで、アジアの方々とも一緒に仕事をする機会がありました。こうした機会を通じて多くの友人を得て、いまでも皆さんとお付き合いをしています。私が今、働いている国際経済研究所も、欧州のシンクタンクとしてブラッセルにあるブリュッセル研究所や、ワシントンD.C.にあるピーターソン国際経済研究所と緊密に交流していますが、これもこれまでの海外の方との個人的なネットワークによるもので、私にとっては貴重なアセットになっています。

2018年の3月に、東工大はインペリアル・カレッジ・ロンドンと第一回グローバル・フェローシップ・プログラムを東京で開催しました。これは両大学の博士課程の学生各20名が参加する交流プログラムで、昨年



はロンドンで開かれています。私も第一回のプログラムで、参加している両大学の学生の皆さんとお話をする機会がありました。皆さんは大変強い使命感を持っており、素晴らしい成果を出されていることにとても感銘を受けました。インペリアル・カレッジ・ロンドンは、100年以上の歴史を有し、多くのノーベル賞やフィールズ賞受賞者を輩出しているほか、世界大学ランキングでも毎年トップ10に入っている理工系の名門大学です。是非これからも海外の優れた大学とこうしたネットワークを広げて、留学生の交換プログラムなどが拡充出来れば良いと思います。

蔵前工業会は現在、13の海外蔵前会とネットワークを構築しています。海外蔵前会は、海外に派遣されている卒業生や母国に帰国した留学生のネットワーク化に、是非とも必要だと思います。私が海外勤務をしていた時にも、現地での他大学の同窓生の交流を羨ましく思っていました。今後はさらに多くの海外蔵前会ができるように蔵前工業会としても強くはたらかせていきたいと思っています。また同時に英語での発信を増やしていければ良いと思っています。

## ITの活用

—— 3番目のIT活用やAI、ビッグデータ問題などは直面する社会的重要な関心テーマですね。

**井戸** 今回の新型コロナウイルス問題は、ビジネスやライフスタイルの大きな変化をもたらしています。最近では「新しい日常」とか「ニューノーマル」という言葉が良く聞かれますが、今後新型コロナウイルス問題が収束しても、リモートでの会議や授業などに象

徴されるITやインターネットの活用は、今後も続くことになります。私の仕事は国際政治経済情勢の調査・研究なので、国際会議などに参加したり、海外の学者やエコノミストの方とお会いすることはできなくても、Web会議などで情報交換や議論を行っています。お陰様で、これまではSkypeを使っているだけでしたが、Zoom、MicrosoftのTeams、GoogleのMeet、CiscoのWebexなど様々なソフトにも大分慣れてきました。もっとも海外の方と気軽に会議をできるようになったのは良いのですが、時差の問題にはいつも悩まされます。米国の朝、欧州の夕方に合わせると、日本は真夜中ということになってしまいます。

蔵前工業会にとってもこうした変化は大きなチャンスだと思います。先程私の場合について触れましたが、日本企業から海外に派遣されている卒業生や留学生の卒業生の方でも、メール・サービスやWebサイトを通じて工業会とコンタクトできれば、会員となるインセンティブは非常に大きいと思います。これは先程述べた国際化の推進にも大きく貢献すると思います。また地方の卒業生の方にとってもこうしたサービスは大変メリットがあるのではないかと思います。将来的には、Webサイトに会員専用ページを設けて、講演会の動画なども視聴できるようになれば本当に素晴らしいと思います。もちろんそのためには様々なリソースが必要になるので、まだまだ時間がかかるとは思いますが、例えば蔵前ジャーナルのオンライン化などは一部既に実現していますし、今後も着実に推進していきたいと思っています。



## 社会との連携強化

—— 4番目の社会連携強化はどのように。

**井戸** 英国には2世紀前から、青少年向けの科学実験講座として有名な「クリスマス・レクチャー」があります。以前から日本のTVでも放送されていたので、私も毎年見るのを楽しみにしていました。これは英国王立研究所が毎年クリスマスの時期に開催しているものですが、現在では日本でも東工大が開催しています。大変素晴らしいことだと思います。是非東工大でもこうしたプログラムを増やしていければと思っています。

蔵前工業会もこれまで、「くらりか」という愛称で知られる蔵前理科教室ふしぎ・不思議や、蔵前技術士会、ベンチャー相談室、そして公開講演会など様々な形で科学技術の振興に貢献してきました。今後はより多くの会員の方にも運営に参加して頂ければと思います。こうした面では海外の大学のホームページをいつも楽しんでいます。ハーバード大学やMITのホームページやYouTubeのページは大変に充実しています。東工大もOpen Course Wareなどで授業動画などの公開も進んできましたが、まだまだプログラム、チャンネル登録者数では追いついていません。日本語と英語の両方でプログラムを作ることが必要という手間はかかりますが、海外から優秀な学生に来てもらうためにも、また先程申し上げた世界ランキングをさらに上げるためにも、益々推進してほしいと思いますし、できることがあれば蔵前工業会も是非支援していきたいと思っています。

また国内における他の大学の同窓会との連携もさらに進められれば良いと思います。先程申し上げたように東工大は一橋大学と連携を強化していますが、蔵前工業会も一橋大学の同窓会である如水会と連携しており、年に一回は合同移動講座が各地で開かれています。私も地方支部に講演でお伺いしたことがあります。如水会の方も来て下さり交流できました。こうしたネットワークがさらに広がっていけば、単科大学も総合大学のような多様な人的ネットワークを作ることができます。

また産学連携も今後さらに発展させる必要がある分野です。大学も産学連携に大変熱心に取り組んでおられるので、工業会としても今後一層支援できればと思っております。またこの面では蔵前経営者懇話会の役割にも期待しています。これまで懇話会は大企業中心とのイメージがあるかもしれませんが、いまではベンチャーの方々も参加されています。また学生と経営者の方の対話の場として始めた「蔵前懇話塾」も順調に続いております。

## 学生の皆様への期待

—— 最後に、蔵前工業会会員に向けてお言葉を頂戴できますでしょうか。出来ましたら現役学生や卒業して間がない若手会員、留学生、女性等に向けてそれぞれ頂戴できますと大変ありがたく存じます。

**井戸** 今の学生の皆様には二つのことを期待したいと思います。第一にリベラルアーツにも力を入れて学んで欲しいことと、第二に学外にもネットワークを広げることです。まず第一の点ですが、以前、東大、慶応大などに比べて東工大の卒業生は、副社長は多いのですが、社長・会長になる卒業生が少ないと聞きました。理工系大学なので技術は熱心に勉強しても、人文系の知識に触れる機会が少ないのかもしれませんが。しかし企業でリーダーシップをとるためには、技術ばかりでなく経営能力も必要です。そのためには人文系の学びと人とのネットワークが大切です。先程も申し上げましたが、東工大は和田元学長のころから人文系の教育にも熱心で、1969年に私が入学した時にも、多くの人文系の優れた先生がおられ、特に進化論・生物学史の八杉先生には個人的にもご指導を頂きました。

蔵前工業会や蔵前経営者懇話会では多分野にわたる講演会が開かれており、学生の皆様も参加できるものもあります。私も世界の政治経済情勢についてお話させて頂いてきました。今後も機会があれば是非皆さんと議論をさせて頂きたいと思っております。

私が1969年に入学した頃は女子学生の数も大変少なかったのですが、最近はかなり増えてきており15%になりました。国家公務員も最近では女性はかなり増えてきて、今年採用された女性総合職は、外務省、金融庁などでは5割程度になっています。また私が以前勤務した日本銀行でも、初めての女性理事が誕生しました。蔵前工業会でも女性の理事が4名

に増え、また女性の卒業生と在学生在が「くれない工業会」として活躍しています。今後多くの女性に東工大を目指してもらうためには、女性の卒業生が活躍している姿を見てもらうことが大切だと思います。今後ともできるだけ支援して参りたいと思っております。

また最近では毎年秋の入学式・卒業式に蔵前工業会の代表として参加させて頂いています。秋の入学式・卒業式は海外からの留学生や日本人の帰国子女の方が多く、式も英語で行われています。アジアを中心に多くの国々から学生が来られていることを嬉しく思っております。留学生の皆様は、学業ばかりでなく生活面、文化面でもスタートの段階でご苦労があると思うので、是非きめ細かな支援をしたいと思っております。大学も留学生向けの学生寮などの整備も進めておりますが、今回滝名誉相談役（S38機）のご支援により建設されているTAKI PLAZAが完成すれば、留学生の皆様が安心して何でも相談される場になることと期待しています。そして卒業後も東工大や蔵前工業会とのネットワークを維持して頂けるように、先程申し上げた海外蔵前会の拡大や、インターネットを使った情報提供を進めたいと考えております。

最後に改めて蔵前工業会の会員の皆様に心からのご支援とご協力をお願いしたいと思います。蔵前工業会を会員である皆様が誇りに思えるような組織にしたいと思います。また今は新型コロナウイルスの関係でなかなかお集まり頂くことも難しい状況ですが、一日も早く皆様に会館へ気軽にお越し頂き、貴重なご意見を伺えるようになることを願っております。

—— 有難うございました。

※ 1) 大岡山・すずかけ台購買書籍店(生協)にて販売。990円(税込)。

インタビュー・文：笹島 和幸 (S51生機57博)  
写真撮影：魚住 貴弘